

# 1940年, 1964年, 2021年オリンピック東京大会

——競技・種目の廃止ならびに新採用とその背景——

市場俊之

## 1. はじめに

世界規模での新型コロナウイルス感染症 (Covid-19) 拡大は、我々の生活を大きく変えた。スポーツにおいては、イベントの中止や延期が相次ぎ、練習は禁止・制限された。“Tokyo 2020”の1年延期(2020年3月24日)がそれらを象徴している。コロナの収束または終息はまだ見通せないが、いわゆる「バブル方式」<sup>1)</sup>の下でスポーツ活動は再開されつつある。そして、“Tokyo 2021 (1年延期に基づき2021と表記)”も、コロナ禍における開催の可否を深く論ずることなく、「無観客」で実施された。ドイツのメディアは、2021年2月早々、コロナのオリンピック・パラリンピックへの影響について、「変異株の大集合になる！」と警鐘を鳴らした<sup>2)</sup>が、大会終了後の今(2021年9月)、その警鐘が正鵠を得たものだったかどうかは不明である。

日本オリンピック委員会が明らかにしているように、「東京大会」は3回を数える<sup>3)</sup>。1940(昭和15)年、「最初」の東京オリンピックが「皇紀2600年」の下で開催されるはずだったが、日中戦争のため「返上」された。ヘルシンキ(フィンランド)での代替開催が模索されたが、結局「中止」となった。「2回目」は1964(昭和39)年、「もはや戦後ではない」というキャッチフレーズとともに実施された。そして、「3回目」が1年延期で実施された2021(令和3)年であり、「震災復興」を謳った。

ロンドンやパリなどと同様、東京はオリンピックを複数回開催した都市である。“Tokyo 2021”を契機とし、3回の東京オリンピックを振り返る。それぞれの東京大会に関する先行研究は多いが、3つの大会を関連付けたものはない<sup>4)</sup>。本稿の目的は、競技・種目に着眼することである。近代オリンピックの歴史を背景に3回の東京オリンピックにおいて「実施されるはずだった・された競技ならびに種目」を前景に立て、特に「競技・種目の変動——廃止や新採用——」の事実とその背景となる要因を探ることである。

## 2. 3回の東京オリンピックにおける競技・種目の概要

1896年以降の近代オリンピックの歴史において顕著なことは、多くの資料が示すように「競技と種目の増加」であり、参加者数もそれに相応する<sup>5)6)</sup>。このことは、1940年、1964年、そして2020+1年の3回の東京オリンピックにも当てはまる(表1)。種目の実数は、約2.8倍に増えている。男性種目の増加がわずかに1.5倍程度であるのに対し、女性のそれは約11倍になる。個々の競技・種目は示さないが、男女間の種目の割合の変動が顕著である。1940年から1964年を経て2021年に至る中で、男性種目の割合は約90%から50%に低下し、女性のそれは、およそ10%から50%弱まで増加した。競技・種目の実数においては、男性では、1.5倍程度の増加にとどまるが、女性では10倍以上になっている。以上のように、実数においても

割合においても、「女性の進出」が指摘できる。女性の参画度の増加ないしは男女の対等化・均等化と言い換えられる。

表1 3回の東京大会における競技と種目

年	1940		1964		2021		傾向
競技数	18		20		33		↗
種目数	120		163		339		
♂	106	88%	124	76%	165	49%	↘
♀	14	12%	33	20%	156	46%	↗
混合	0	0%	6*	4%	16	5%	↗

\* すべて馬術競技

出所) 下記を基に筆者作成

- ・公益財団法人日本オリンピック委員会(2021)日本の大会参加状況. <https://www.joc.or.jp/games/olympic/sanka/index.html>, (2022年1月2日).
- ・財団法人日本オリンピック委員会(1994)近代オリンピック100年の歩み. ベースボール・マガジン社.
- ・第12回オリンピック東京大会組織委員会(1938)オリンピック東京大会昭和15年 一般規則及びプログラム. 国立国会図書館デジタルコレクション.

### 3. 消滅した競技・種目

近代の夏季オリンピック全史(1896～2021年)における競技・種目のすべてを網羅するのは容易ではない。現在(2021年)のところ、正式な競技・種目ではない「ポロ」と「滑空競技」をとり挙げる。

#### 3-1. ポロ

スポーツ大事典<sup>7)</sup>に依拠すれば、ポロの概要は以下である。ポロの起源は、紀元前6世紀頃の古代ペルシャの騎馬民族であり、早期に(今日の)中国や日本に伝わった(図1)。しかし、ヨーロッパへの伝搬は、時を経たいわゆる「植民地時代」だという。

ポロは、第2次世界大戦による中断以前の5回のオリンピック(1900, 1908, 1920, 1924および1936年)において実施された<sup>8)</sup>。1940年のプログラムの中にポロはない<sup>9)</sup>。そして、第2次世界大戦後から今日まで、オリンピックにおいて何らか



出所) 日本の打毬(ウィリアム・グリフィス著『The Mikado's Empire (ミカドの帝国)』より) The mikado's empire Year: 1894 (1890s) Authors: Griffis, William Elliot, 1843-1928

<https://archive.org/stream/mikadosempire05grif/mikadosempire05grif#page/n537/mode/1up>

図1 日本におけるポロ



出所) <https://parstoday.com/ja/news/iran-i47142>

図2 ポロ

の形でポロが実施されたという記録はない。ポロ消滅の要因のひとつとして、「競技空間」の大きさが指摘できよう。今日のポロ(図2)は、規則上、「約270m × 約150m」という広大な面積を必要とする<sup>10)</sup>。同時にまた、馬に乗って走り回ることから、馬蹄による芝生の損傷が避けられない。期間限定とは言え、必要な広さを確保することと芝生の状態を一定水準で維持することは難しいと推察できる。同時に、馬の検疫も見過ごせない。

#### 3-2. 滑空競技

滑空競技、すなわちグライダーは、1936年のオリンピックにおいて「公開ないしは非公式」として実施された<sup>11)</sup>。次の返上・中止になった1940年オリンピックのプログラムにはポロと同様に見



出所) <https://www.facebook.com/SegelfluggruppeBensheim/>

図3 滑空競技イメージ

だせない<sup>12)</sup>。飛行時間や距離、あるいはアクロバットなど、運動課題（競技特性）によりグライダーの構造は異なるであろう。加えて、天候、特に風という流動的な自然条件を考慮しなければならない。グライダーの「運動空間を限定できない」、引いては「統一的な競技規則を作成し得なかった」と推測できる。

#### 4. 新しいないしは際立つ競技・種目

1940年と1964年の2回の東京オリンピックに関し、「柔道」・「バレーボール」・「野球」に注目しなければならない。

##### 4-1. 柔道とバレーボール

1964年東京、2つの競技が新たに採用された<sup>13)</sup>。柔道（男）とバレーボール（男女）である。柔道は、周知のように日本発祥とされ、嘉納治五郎（かのう・じごろう：1860-1938）による<sup>14)15)</sup>。彼は、日本ないしはアジアからの初のIOC委員であり、1912年の日本のオリンピック初参加をなした人物である。それ故に、嘉納は「柔道の父」・「体育の父」・「オリンピックの父」と称されている。1940年の東京招致（冬季：札幌）も嘉納の功績とされよう。これらの事情を踏まえれば、1964年の柔道採用は、自明と理解できる。同時に、日中戦争（1937-1945）・太平洋戦争（1941-1945）・第2次世界大戦（1939-1945）による世界的なスポーツ活動の中断を考慮しても、「遅きに失した

感」も否めない。

バレーボールは、当時（1964年以前）の日本において全国的に広まっていたと言える。学校のみならず、繊維工場においてもである<sup>16)</sup>。このバレーボールは、大森兵蔵（おおもり・ひょうぞう：1876-1913)<sup>17)18)</sup>により、アメリカから日本に導入されたものである。大森は、1912年の日本のオリンピック初参加にも深く関与している。



図4 嘉納治五郎（1860-1938）



図5 1912年アントワープ大会入場行進  
大森兵蔵（1876-1913）（円内）

スポーツ競技・種目の個別史から見れば、「ともにYMCA生まれ」という意味で、バスケットボールとバレーボールは兄弟と言ってよい<sup>19)</sup>。だが、オリンピックへの道程は異なる。男性バスケットボールは、すでに1936年にオリンピック公式競技だったが、女性は40年後の1976年になる<sup>20)</sup>。男女間で「オリンピック化」に時間差があるバスケットボールに対して、バレーボールは、男女同時にオリンピック化された。1964年東京である。加えて、1996以降、ビーチバレーボール(男女)もオリンピック化されている<sup>21)</sup>。

#### 4-2. 野球と柔道

野球がオリンピック公式競技として採用されたのは、1992年バルセロナ大会(スペイン)で、2008年まで実施された。“Tokyo 2021”において、野球は再び公式競技として実施される(表2)。しかし、次の2024年パリ大会では実施されないこと

がすでに決定している<sup>22)</sup>。アメリカ合衆国のみならず、日本他で広く親しまれている野球だが、例えばサッカーの世界的浸透度には及ばない。オリンピック公式競技としての野球は、上述の如く1992年からで新しいが、実際には近代オリンピック開始直後から行われていたのである。「非公式・公開・番外」として8回も実施されていたのである(表2)。8回には1940年も含まれる。公式実施回数の6を上回っている。女性競技のソフトボールは、1996年になって初めて公式競技となり、その後の経過は野球と軌を一にしている。

1940年大会(返上・中止)のプログラムの中に、「番外競技」として「日本独自の格闘技(武道)」が見いだせる<sup>23)</sup>。そこには柔道も含まれていたように感じられる。柔道は、「もはや戦後ではない」<sup>24)</sup>という1964年大会において、バレーボールと同時に公式化された(表3)。1968年メキシコ大会では実施されなかったが、その後の1972年ミュン

表2 野 球

非 公 式								
年	1904	1912	1936	(1940)	1956	1964	1984	1988
場所	セントルイス	ストックホルム	ベルリン	(東京)	メルボルン	東京	ロサンゼルス	ソウル
公 式								
年	1992	1996	2000	2004	2008	2021		
場所	バルセロナ	アトランタ	シドニー	アテネ	北京	東京		
		ソフトボール	ソフトボール	ソフトボール	ソフトボール	ソフトボール		

出所) 下記を基に筆者作成

- ・公益財団法人日本オリンピック委員会(2021)日本の大会参加状況。
- ・財団法人日本オリンピック委員会(1994)近代オリンピック100年の歩み。ベースボール・マガジン社。
- ・第12回オリンピック東京大会組織委員会(1938)オリンピック東京大会昭和15年 一般規則及びプログラム。国立国会図書館デジタルコレクション。

表3 柔 道

非公式								
年	(1940)							
場所	(東京)							
公 式								
	公式	実施されず	公式		公式	非公式	公式	公式
年	1964(M)	1968	1972(M)	1988	M	F	1992(M+F)	2021(M+F)
場所	東京	メキシコ	ミュンヘン	ソウル			バルセロナ	東京

出所) 下記を基に筆者作成

- ・公益財団法人日本オリンピック委員会(2021)日本の大会参加状況。
- ・財団法人日本オリンピック委員会(1994)近代オリンピック100年の歩み。ベースボール・マガジン社。
- ・第12回オリンピック東京大会組織委員会(1938)オリンピック東京大会昭和15年 一般規則及びプログラム。国立国会図書館デジタルコレクション。

ヒェン以降、柔道は途切れることなく実施されている。女性の柔道は1992年に正式採用された。現在（2021）のところ、男女それぞれに体重別7階級ならびに男女混合団体戦が種目化されている<sup>25)</sup>。

アメリカ傘下の国々や地域のスポーツにおいてあたりまえになっていた野球よりも、「嘉納治五郎－柔道－IOC委員－1912年オリンピック初参加－1940年東京招致」に注目すれば、柔道が優先されるべきだったと感じられる。当時のIOC委員たちが欧米主流だったとすれば、一たとえ野球が浸透していないとしても一野球を正式競技として採用したかった（させたかった）のかもしれない。これは、以下からの推論である。当時、IOC内部ないしは嘉納と他の委員の間に意見の相違があったともいう。欧米の委員たちに対し、嘉納は過度なまでに日本的な主張を繰り返したとされる<sup>26)</sup>。このような状況により、柔道よりも野球を早期に前面に押し出すこと（非公式ではあるが、オリンピックで実施）になったのかもしれない。そこにはまた、1938年の嘉納の死も少なからず影響しただろう。柔道はわずか1回、1940年大会において非公式ではあるが、「武道」の一部として実施が予定された。だが、1940年大会は周知のように返上・中止になった。およそ25年後の1964年、柔道は「いきなり」登場してきた。柔道のオリンピック公式競技化には、開催地が大きく影響したと考えられる。すなわち、いわゆる「地の利」、東京開催である。

4-3. “Tokyo 2021”における新競技・種目の特徴  
新しい競技は、「空手」・「スケートボード」・「ス

ポーツクライミング」・「サーフィン」・「3x3（バスケットボール）」である（図6）。それぞれの競技内の種目は、男女均等である。「空手」が若干異色に映る。それは、これまで男性限定ないしは男性的とされてきた格闘技だからであろう。しかしながら、重量挙げやレスリング、そして柔道などにおいて、大きな時間差がありながらも女性種目が設定されてきた先例を踏まえば、すでに違和感は小さく、「あたりまえ」になった感がある。つまり、「格闘技は、男性云々」というような「これまでの男女別の視点」は、今や時代錯誤であろう。

従来の競技に新しい種目も設置される。「男女混合」である。陸上競技や水泳競技の「混合リレー」、柔道の「混合団体」がそれである。ただし、「男性 vs. 女性」の直接対峙はない。（直に組み合うことはないが、コースを隔てて泳ぐ・走るはある。）「馬場馬術」は、男女の隔てがない、おそらく唯一の競技である。

現行のオリンピック憲章<sup>27)</sup>は、新しい競技や種目の採用が「総会で過半数の賛成を得る」・「開催都市の意向をある程度反映させる」によると定めている。観客に対してよりスペクタクルなシーンを提供する、メディア受けするものが強く求められていると解釈できよう。言い換えれば、清々しいあるいは感動的なスポーツシーンの背後では、スポーツ政治的かつ経済的な付度や巨額の往来という「魑魅魍魎」が跋扈しているのかもしれない。

#### 4-4. 競技・種目の採用年および「性差」

ある競技または種目において、既存の男性部門に対し、女性部門が新たに採用されるまでの時間



出所) <https://olympics.com/tokyo-2020/en/sports/>

図6 “Tokyo 2021”の新競技

表4 競技・種目の時間差 (抜粋)

	男性♂	女性♀	時間差
重量挙げ	1896	2000	104
レスリング	1896	2004	108
柔道	1964	1992	28
ボクシング	1904	2012	108
水球	1900	2000	100
サッカー	1900	1996	96
棒高跳び	1896	2000	104
ハンマー投げ	1900	2000	100

出所) JOC (<https://www.joc.or.jp/games/olympic/>) ほか当該競技連盟サイト等を基に筆者作成

的な隔たり, つまり「オリンピック化」における男女の時間差は, およそ100年を数える(表4)。重量挙げやレスリングなどの格闘技系に加え, いわゆる「男性的ないしは激しい競技や種目」に女性部門の設置までの時間差が大きい。

「新体操」と「シンクロナイズドスイミング(2017年以降アーティスティックスイミング)」は, 1984年のロサンゼルス大会から採用されている<sup>28)</sup>。オリンピックとしては, これまでのところ, 女性だけの競技である。ただし, 男性による(男性が混じった)新体操やアーティスティックスイミングは, すでに散見されており<sup>29)30)</sup>, 想像を絶するほど珍奇ではなくなっている。スポーツにおける競技や種目の男女差は影を潜めつつある。すなわち, 先行する男性的競技・種目への女性部門設置という「男女均等化」ないしは「中性化」が進んでいるということである。

「性に関する社会的規範(ジェンダー)」は, 人間のこれまでの歴史の中で形成され広く定着してきたもので, 共通理解されているように映る。そして, 「男性(的)あるいは女性(的)」は, 洋の東西を問わず, 「どこか自然に」使用されている。しかしながら, 男女とは「やっかい極まるテーマ」である<sup>31)</sup>。男性, 女性と日常一口に言うけれど, そのアスリートの外見は多彩である(図7)。一方では, 例えば染色体の組み合わせという生物学・医学的な男女の区分が可能である。だが他方では, “LGBTQ+”も存在する。これらを貫通する



図7 Howard Schatz (2002) Athlete

男女の定義は, ない。

オリンピックまたはスポーツ一般への女性の参画は, 1960年代後半から1970年代に世界規模で起きた女性解放運動, いわゆる「ウーマンリブ運動(Women's liberation movement)」<sup>32)</sup>と連動するように思われる。映像の世紀プレミアム「世界を変えた女たち(2016年12月3日放送)」からも同様な印象を得ることができる。1960年の陸上競技の女性800mの再オリンピック種目化, 1984年の新体操やアーティスティックスイミングの新規採用ならびに女性マラソンの初実施, これらは, スポーツ版ウーマンリブの発現形態に値するとして無理はなかろう。そして今, 井谷聡子(いたに・さとこ)と清水晶子(しみず・あきこ)の対談<sup>33)</sup>は, 従来のシンプルな男女差・区別を超越したジェンダーとオリンピックも含めたスポーツに関わる様々な事例を我々は眼前にし, 対峙しなくてはならないと指摘する。

## 5. ま と め

3回の東京オリンピック大会における競技・種目をテーマ化した。競技・種目の増加と女性進出に言及し, いくつか具体的例を引き, それらの細部を明らかにした。競技・種目の排除ならびに新採用ないしは公式化に言及するだけでなく, その背景に接近しようと試みた。自然科学的ないしは統計的なエヴィデンスは得られないが, 競技・種目の採用ないし決定は, いわゆる「時代思潮」ま

たは「時の嗜好」を反映していると考えてよいだろう。「男性的ないし女性的,あるいはまた中性的」がキーワードとなる。ウーマンリブ運動の社会全体への影響, スポーツにおける政治化・商業化, ショー化またはスペクタクル化が「時代性」をかたちづけている。そこでは, 競技や種目の本質的特性から離れ, よく見られないしはよく売り込むという外へ向かうベクトルが大きく強くなっている。スポーツないしはオリンピックは, 絶えず外部から影響を受け, 規制され, 変化させられている, と改めて認識すべきである。そして, それは今後, さらにエスカレートしていくだろう。

#### 参考資料

- 1) NHK (2021) 東京オリンピックの安全は本当に守れるか!? “バブルには穴が空く” (2021-06-28). <https://www3.nhk.or.jp/sports/story/16632/index.html>, (2021年7月7日).
- 2) FOCUS Online (2021) Olympia in Tokio: Wissenschaftler warnen vor Corona-Mutationen (2021-02-08). [https://www.focus.de/sport/mehrsport/olympia-2020-olympia-in-tokio-wissenschaftler-warnen-vor-corona-mutationen\\_id\\_12956477.html](https://www.focus.de/sport/mehrsport/olympia-2020-olympia-in-tokio-wissenschaftler-warnen-vor-corona-mutationen_id_12956477.html), (2021年7月7日).
- 3) 公益財団法人日本オリンピック委員会 (2021) 日本の大会参加状況. <https://www.joc.or.jp/games/olympic/sanka/>, (2021年7月7日).
- 4) 坂上康博 (2021) 3つの東京オリンピックと歴史研究の課題—忘却と捏造, 神話化に抗して—. 歴史学研究第1008号, 2-11および26; 大熊廣明 (監修) (2015) 時代背景から考える日本の6つのオリンピック①~③. (株) ベースボール・マガジン社: 日本オリンピック・アカデミー (2018) 3つのオリンピックを大研究①~③. 岩崎書店.
- 5) 内海和雄 (2018) オリンピックと女性スポーツ. 広島経済大学研究論集第41巻第2号, 2-16. (<http://dx.doi.org/10.18996/kenkyu2018410201.pdf>), (2021年7月7日).
- 6) 坂上康博 (編) 12の間から始めるオリンピック・パラリンピック研究. かもがわ出版, 74-77.
- 7) 岸野雄三ほか (編) (1987) 最新スポーツ大事典 (Encyclopedia of Sports). 大修館, 1211-1212.
- 8) 中村敏雄・高橋健夫・寒川恒夫・友添秀則 (編) (2015) 21世紀スポーツ大事典. 大修館, 1257-1258.
- 9) 第12回オリンピック東京大会組織委員会 (1938) オリンピック東京大会昭和15年 一般規則及びプログラム. 国立国会図書館デジタルコレクション. <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1023502>, (2021年4月).
- 10) Polo British Country Spirit (2019) 基本的なポロ (POLO) のルールと試合進行 / ポロビーシーエス杯. <https://www.polo.co.jp/column/%E5%9F%BA%E6%9C%AC%E7%9A%84%E3%81%AA%E3%83%AB%E3%83%BC%E3%83%AB%E3%81%A8%E8%A9%A6%E5%90%88%E9%80%B2%E8%A1%8C%E3%80%80-%E3%80%80%E3%83%9D%E3%83%AD%E3%83%93%E3%83%BC%E3%82%B7%E3%83%BC%E3%82%A8%E3%82%B9/>, (2021年7月7日).
- 11) スポーツの百科事典 (2007) 空のスポーツ グライダー. 丸善株式会社, 482.
- 12) 第12回オリンピック東京大会組織委員会 (1938) オリンピック東京大会昭和15年 一般規則及びプログラム. 国立国会図書館デジタルコレクション. <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/1023502>, (2021年4月).
- 13) 財団法人日本オリンピック委員会 (1994) 近代オリンピック100年の歩み. ベースボール・マガジン社, 166-167.
- 14) 稲垣正浩・谷釜了正 (編) (1995) スポーツ史講義. 大修館書店, 200-202, 207, 211.
- 15) 筑波大学 (2010) 嘉納治五郎. <https://www.tsukuba.ac.jp/about/outline-identity/kano/>, (2021年7月7日).
- 16) 近藤正高 (2013) 東京オリンピックの伝説, 日本女子バレーボール「東洋の魔女」の栄光と女工哀史 / Livedoor\*NEWS. <https://news.livedoor.com/article/detail/8145161/>, (2021年7月7日).
- 17) 一般財団法人生涯学習開発財団 (不明) 健やかな学びとスポーツの発展に尽くした大森兵蔵. <https://www.gllc.or.jp/profile/history/ohmori.html>, (2021年7月7日).
- 18) 岸野雄三・多和健雄ほか (1972) スポーツの技術史. 大修館書店, 447.
- 19) 岸野雄三ほか (編) (1987) 最新スポーツ大事典 (Encyclopedia of Sports). 大修館書店, 982, 1023.
- 20) 中村敏雄・高橋健夫・寒川恒夫・友添秀則 (編) (2015) 21世紀スポーツ大事典. 大修館, 1194.
- 21) (公) 日本オリンピック委員会 (2021) バレーボール. <https://www.joc.or.jp/sports/volleyball.html>, (2021

- 年11月8日).
- 22) スポニチアネックス(2019) 野球&ソフト除外... 24年パリ五輪組織委の追加種目候補残れず. <https://www.sponichi.co.jp/baseball/news/2019/02/22/kiji/20190221s00001000433000c.html>, (2021年7月8日).
- 23) 第12回オリンピック東京大会組織委員会(1938) オリンピック東京大会昭和15年 一般規則及びプログラム. 国立国会図書館デジタルコレクション. <https://dl.ndl.go.jp/infondljp/pid/1023502>, (2021年4月).
- 24) 後藤誉之助(1956)『経済白書』序文.
- 25) (公) 全日本柔道連盟(2020) 柔道の大会について. <https://www.judo.or.jp/what-is-judo/judo-tournament/>, (2021年11月8日).
- 26) 小路田泰直・井上洋一・石坂友司(編著)(2018) ニッポンのオリンピック. 青弓社, 102-105.
- 27) オリンピック憲章(2020) Olympic Charter 2020 年版・英和对訳(2020年7月17日から有効), 72-75. <https://www.joc.or.jp/olympism/charter/pdf/olympiccharter2020.pdf>, (2021年7月27日).
- 28) 中村敏雄・高橋健夫・寒川恒夫・友添秀則(編)(2015) 21世紀スポーツ大事典. 大修館書店, 1075, 1077.
- 29) 男子新体操総合情報サイト(2016) KIRIMOMI. <http://men-rg.com/>, (2011年11月8日).
- 30) (公) 日本水泳連盟(2021) 2021年度男子AS講習会(大阪会場)開催のお知らせ. <https://swim.or.jp/news/22508/>, (2021年11月8日).
- 31) 坂上康博(編) 12の間から始めるオリンピック・パラリンピック研究. かもがわ出版, 80-83.
- 32) 新世紀ビジュアル大辞典(2004) リブ(lib). (株) 学習研究社, 2789.
- 33) VOGUE(2021) 五輪開幕の今こそ考えたい、スポーツにおけるセクシズム—井谷聡子×清水晶子【VOGUEと学ぶフェミニズム Vol.13(前編)】. <https://www.vogue.co.jp/change/article/feminism-lesson-vol13-part1>, (2021年7月27日).
- 34) VOGUE(2021) 体育教育から見る、“スポーツのジェンダー化”問題—井谷聡子×清水晶子【VOGUEと学ぶフェミニズム Vol.13(後編)】. <https://www.vogue.co.jp/change/article/feminism-lesson-vol13-part2>, (2021年7月27日).